

# お客様が求める植物そして園芸店とは？

(有)ヨネヤマプランテーション

椎名 亜紀

## はじめに

私の勤めている(有)ヨネヤマプランテーションは、総合園芸(ただし切花はありません)とペットを扱うお店(小売店)を、関東圏に11店舗(そのうち園芸を扱う店舗は5店)、ちょっと離れて仙台に3店舗、営業しています。あと、本店には、貸植木、造園、園芸卸もあり、さらに近年オンラインショップも始めています。

入社以来、ずっと園芸事業部の所属ですので、正直言ってペット事業部の事は残念ながら、よくわかりません(家では猫を8匹飼っていますので、ヘビーユーザーの立場としてなら、いろいろコメント出来ますけれども。猫ボランティアをやっていますので、相談や仔猫を欲しい方はどうぞご連絡をお願いします)。

## 勤続15年 お客様の好みも変化

私は平成5年に入社しました。当初はこんなに長く勤めることになるとは予想もしていませんでした。満員電車で通勤するのはいやだったので、比較的家から近く



卸部の入り口から。回転が命ですから、とにかく目に付きやすいように、毎日のように配置が変わります。孔雀アスターの大鉢、ウメモドキ、到着したばかりのマリーゴールドは台車積みで

で働けそうな所を選んだだけです。かなり軽い気持ちでした。

ところが、私の予想よりもはるかにそこは戦場でした。今考えてみると、パブルがはじけた直後くらいで、ガーデンブームのはしりの頃ということになるのでしょうか？ サフィニアが発売されてまだ間もなく、色もパープルとパープルミニしかなかったのを覚えています。

それまで、自分で花を買う時はせいぜい近所のお花屋さんぐらいしか行った事がなく、“郊外型ガーデンセンター”なるものに足を踏み入れたのはこれが初めてと言ってもよいくらいだったのですが、いや、人の多いこと！ レジは長蛇の列ですし、はっきり言ってあっけにとられてしまいました。

でも、そんな花屋さん1年生の私にも、お客さんの質問はどんどん飛んできます。

「マリーゴールドはどこにあるの？」ぐらいなら、すぐにも答えられますが、

「いつまで咲くの？」とか、毎年咲くかどうか、日々のお手入れなどなど、なんでも聞かれます。お客様から見

たら、5年とか10年勤めている人も、1年目の私も、同じ“花屋さんというプロ”に見えるわけですから。この時、「1000属をやっていて本当に良かった」と思い、同時に「ぜんぜん足りない。勉強しなきゃ」とも思いました。

その後、ハーブのブームやコニファーのブーム、ウッド素材のラティスやフェンスの爆発的流行、イングリッシュガーデンの大きな波がやってきましたね。90年代の後半ぐらいから、どんどん新しい植物が紹介されるようになり、調べるのが大変でした。今はインターネットがあるのでとても助かります(間違いもありませんが…)

現在はバラ(オールドローズ、イングリッシュローズ)、クリスマスローズ、クレマチスで



卸部 風知草や秋明菊、ノボタンやツルコケモモなどが並んでいます。奥のほうにオリーブなど背が高めの木で定番のものが

しょうか？ カラーリーフの樹木類（ハナズオウ‘フォレストパンジー’やテマリシモツケ‘ディアポロ’、ネム‘サマーチョコレート’、ナンキンハゼ‘メロキヤンドル’など）や、草花（ツボサンゴやティアレラ、ブルネラなど）も人気があるようです。今の住宅事情から、どうしても洋風の物の人気が高く、和風の物は敬遠されがちなのですが、ギボウシ（ホスタ）の再発見など、捉え方ひとつで、見直しが出来ると思います。個人的には、ヤマアジサイ（日陰で良く、コンパクトにも大きくしても楽しめる）、ツバキ・サザンカ（花の少ない冬に咲き、侘び寂びの一重小輪からゴージャスな大輪までお好みに応じて）、ナンテンやヒイラギ（昔ながらの縁起物の解説をすると、若い方でも喜ばれるものですね）などは面白い素材になるとは思います。

また、特に若い世代の方に多いのですが、「とにかく常緑樹が良い」と言われるので、目隠しに使われるのかと思ってお尋ねすると、「それもあるけど、近隣の方と落ち葉で揉め事になりたくない」と・・・。常緑樹でもまったく落ち葉が出ない訳ではないことや、落葉樹の方が、季節の移り変わりを良く教えてくれることなどを説明すると、気持ちを変えられる方もいらっしゃるのです

が、都会に近い住宅地とはいえ、なんだか寂しい気持ちになりますね。

### 質問に応じて買っていただく

今、私がいる所は、他の店舗と少しコンセプトが違います。バラを主体とした花木類、庭木、果樹などと、ハーブや宿根草、山野草などを主に取り扱っています。そして、花の時期が過ぎても処分したりせず、植え替えをしたり、農薬を撒いたりして、付加価値をつけて販売



卸部 アメジストセージやウィンターコスモスなど。温室の中はなぜか資材置き場と多肉植物が（他にも温室はあるのですが）



売店の入り口ですので、季節の花になっています。今(9月下旬)はやはり菊。まあい小菊(ボサ菊)は変わらぬ人気。切花にもなる高性の菊は、どちらかという、黄色や白のベーシックなものより、変り種(緑とか)の方が売れるような気がします

チャンスを狙っています。季節外でも色々な物を扱っていますし、通常取引されている物より大きく伸びているものが多いので、造園業の方たちにはことのほか喜ばれているような気がします。逆に花苗、球根、タネ、資材はほとんど扱っていませんので、それらが目的で来られた方は、がっかりされるかも？ その場合には、ありそうなお店を紹介したりします。来店される方たちは、バラその他が好きで好きでたまらないマニアな方から、初めて庭に何か木を植えてみようと思った方まで、さまざまです。

そんな方たちのために、どんな質問にも答えられるプロフェッショナルなアドバイザーを目指しています。「あのう～、すみません、この木ですけど・・・」  
「はい、ええとオリーブですね。」  
「庭に植えようと思うのですが、どうですか？」  
「まあ、お家のどの部分に植えられるか、また地形などによっても変わってきますが。もともとは暖かいイタリアやスペインの方の木ですので、ものすごく寒さに強いわけではないんですよ。常緑ということになっていますが、場合によっては、葉が落ちることもありますし、今、庭に下ろしてもこれからどんどん寒くなりますよね。そうする

と、土の中で根を張っていないので、寒さの害を受けやすいですから、できれば、今年の冬は鉢植えのまま、軒下などに入れてあげて、来年の春、暖かくなってからお庭に下ろすのを勧めます。

「大きくなりますか？」

「かなり大きくなりますよ～。特に混み合った所を冬の間に透かすように剪定すると、残った枝が良く伸びます。オリーブは切るほどに元気になる木ですから、細い枝なんかはどんどん切ってください。ただ、花芽は去年新しく伸びた枝につく場合が多いので、丸く刈り込んだりするの、やめた方がいいですね。」

「実は付きますか？」

「できれば近くに違う品種が植わっているといいですよ。これは‘ミッション’ですから、花粉の多い‘ネバディロブランコ’なんかがあるといいですね。」

「はあ、わかりました。じゃあこれを下さい。」

「ありがとうございます・・・」

### 園芸店のコンシェルジュを目指す

困った時に(例えばうちで購入された物でなくても)「あそこの人に聞けば何とかなる」という安心を提供す



ることによって、リピーターになって頂けるといいなと思います。近年、人件費削減のために、ホームセンターなどでは専門知識のある人が減っているようですからね。

また、リスクのあるものはなるべく事前に伝えて、その上で選んでいただきたいと思っています。例えば、カリフォルニアライラック(セアノサス)はとてもきれいな青い花が人気の花木ですが、高温多湿が苦手だし、冬の寒風も得意じゃないので、鉢植えで場所を移動できるなら、わりと育つのですが、地植えだと難しいと思うのです。そういう事が判っていて、それでも育ててみようかとチャレンジ

するのと、やみくもにきれいだからと買って、すぐに枯らしてしまうのでは、後に残る気持ちにずいぶんと違いが出てくると思いませんか？ 通信販売のカatalogや、ネットショップの説明を見ていると、いいことしか書いてなかったりしますよね(そんな時、つい「そんなうまい話があるかいな」とか一人つつこみをしてしまいます、しかも関西弁)。

そのためにも、普段から情報収集を心掛けて、新しい植物を見かけた時には、育て方、原産地など、一週間のことを調べておくようにしています。幸い、調べものをするのが好きな性質ですし、調べたことをお客様に説明して、満足してもらえた時には、とてもうれしいものです。

購入されたお客様が、後日また来られて、「よく育って



小売部山草コーナーでは、ちょっとシブく、大文字草のフェアをやっています

いますよ」とか、「あなたのアドバイスにしたがって、あの木を選んで良かった」とか言っていただけると、本当にこの仕事をしていて良かったなと思います。

さらにスキルをアップさせて、さながらホテルのコンシェルジュのように、どんなリクエストにも対応できるようにになりたいです。

なお、写真では本店のようすを紹介します。

さて突然ですが、私の好きなミステリのご紹介を…。

『にぎやかな眠り』シャーロット・マクラウド著

創元推理文庫

主人公で探偵を勤めるのは、飼料用のカブの品種改良で名を馳せたシャンディ教授です。バラクラヴァ農業大で応用土壌学を教えています。第1作では、クリスマス休暇で出かけている間に、自宅で殺人事件が起こり(被害者は同僚の教授夫人ですが、まわりから煙たがられていた、一癖も二癖もある人物)やむなく原因を調べ始めるはめに…。

シリーズになっていて、第2作では、バラクラヴァ郡の荷馬競争と品評会で優勝候補のブタの誘拐、第5作ではグラウンドホッグ・デー(冬眠中のグラウンドホッグをたたき起こして、その仕草で、春の到来を占うお祭り)というように、次々と新しい(農業大らしい?)楽しそうなイベントが描かれています。ミステリですから、殺人もおこりますが、肩がこらずに楽しめ、読後感も爽やかです。秋、いえ冬の夜長にいかがですか？



小売部入り口から少し奥に進んだ所で、サルビア類やルドベキア、エリカなど。だいぶ種類が増えました